

## 令和5年度 第2回運営協議会議事録

開催日：令和5年11月20日(月) 14:15～15:25 於：プレゼンテーションルーム

出席者：【委員（50音順、敬称略）】

岩崎 誠、上田 えりか、岡崎 裕、田中正視、寺脇 久人、林 洋平（欠席）

【事務局員】

長岡校長、田中教頭、井内首席、宮武首席

【学校関係者】

各分掌長、学年主任、初任者

### 1 連絡及び報告事項

#### （1）府立学校再編整備後の本校志願状況について

- ・再編整備計画を受けて泉鳥取高校が募集を停止している。近隣であり学力面でも泉鳥取高校と拮抗している本校に、一定数の受験生徒が流れてくることを予想していたが、女子生徒については昨年度から大きく減少した。

男子生徒は増加したが、減少した女子生徒人数を下回り、結果的に志願者数は減少した。

- ・現在の本校に入学してくる9つの市町村だけを見ても、小中学校の各学年の在籍生徒数から予想すると令和7年度の中学校卒業生徒が令和6年度の中学校卒業生徒数に比べ500人程度、大幅に減少する。それだけに、受験生徒確保のために特色づくりが大切である。
- ・ハートフルほいくコースの取り組みは既存のものとして、新たな特色づくりが必要になってくる。

【質疑・応答】

（岡崎氏）去年と今年は募集に対し定員割れしている。泉鳥取高校を受験していた層の中学生がりんくう翔南高校に流れてこなかった要因は何か。

（教頭）おそらく私学に流れている。大阪府は私学の授業料無償化になっているため、経済面での私学入学へのハードルが下がったのが大きな要因。

（全ての委員）私学の授業料無償化をしたことで予測できること。行政は再編整備を行う上で予測できないことは無いはずでは。

#### （2）授業見学

- ・新型コロナ禍とインフルエンザの流行がほぼ皆無の状況となったため、3年ぶりに授業見学を実施した。
- ・教員間の授業見学や、研究授業で教員が使用している、評価シートを配付し、見学時のポイントを伝えた。

【見学後のコメント・質疑応答】

（岩崎氏）

・自身の勤務する中学校は1クラスの生徒数が最大30人。それに比べると教室の圧迫感を感じた。

- ・生徒たちが元気で、普段の様子を見せてもらえたと感じる。普段から色んな先生が見に来られているからカリラックスした生徒もいた印象である。若い先生などもいきいきと元

気に授業されているなど感じた。

(岡崎氏)

- ・教室のサイズが思ったよりも狭いなという印象を受けた。定員を下回ることは残念なことであるが、クラスの人数が減れば、多様化する生徒にきめ細かい生徒対応が可能になるメリットが生まれるはず。本来なら、生徒の数が減るに従って教室の密度は下がるはずが、府立高校を統廃合することにより、教室の人口密度が上がる傾向というのはいかなものかと感じる。
- ・全体に渡って ICT の活用がプロジェクターの投影レベルに留まっているなという印象であった。一人一台端末を導入しているので、1つくらい効果的に活用できているクラスがあってもよかったのではないか。

(教頭)

- ・授業の最後に GoogleForm で小テストをするなど、ICT 機器の活用は一部で進んでいるが、スマートフォンなど Chromebook 以外の機器で代替している教員も増えてきている。

(田中氏)

- ・1クラスの人数が30人を超えたら指導はしんどいと思う。20人台だとお互いの気持が通じる感覚があるが、人数が多いと難しい。先生と生徒が心通じ合うような授業ができるように、そういう環境をつくれればよいと感じる。

(寺脇氏)

- ・新型コロナ明けで状況がかわっている。不登校の生徒の人数も増え、授業以外でやることが多いのでは？コミュニケーションを大切にしてほしい。担任を設定せず全員が担任になるとか。TPO を考えて動けるようにする工夫が必要だと感じる。
- ・クラス数を7クラスにして、そのための加配の要求はできないのか。大人しい子はあの中(声の大きい生徒がいる中)でやっていけるのか。そのための工夫は。

(教頭)

- ・実際、生徒や保護者からの苦情もある。授業の妨げになる行為については個別の指導を行うことで対応している。特性のある生徒がいる場合、今後はクールダウンのための部屋を設置するなどの対応が必要かもしれない。

(上田氏)

- ・最近、貝塚高校を見学させてもらったが、教室のサイズ感には比較的余裕があると感じた。2年は一般に中だるみの時期だが、ベネッセ模試の結果をみると比較的成績が落ち込んでいない。勉強に取り組みたい生徒が取り組める環境づくりが大事と感じた。
- ・「このテーマは深掘りしたいんだ」という授業回では、クラスの人数半分にして取り組めるような仕組みづくりがあるとよい。少ない人数なら取り組みやすいし、生徒同士で教え合うことも多い。

(教頭)

- ・多様化するとともに、義務教育段階の学習内容が十分に獲得できていない生徒の入学が増加する中で工夫していく。